

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	多言語多文化共生教育の視点から見たハワイ日系移民語彙への中華系移民語彙の影響と発展
------	---

研究代表者

氏名 松岡 榮志	所属 人文社会科学系	職名 教授
-------------	---------------	----------

研究分担者

氏名 木村 守	所属 人文社会科学系	職名 准教授
島田 めぐみ	留学生センター	教授
川崎 誠司	人文社会科学系	教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本年度は、研究の予備段階として、環太平洋地域における、中国語、日本語の伝播とその言語環境形成に関する、状況把握、資料調査を行った。

第一段階として、ハワイの現地調査を行う予定であったが、配分額が当初予算の一〇分の一に満たないため、急遽予定を変更して、現地調査は見送り、研究分担者相互の資料交換、これまでの現地経験の相互理解を旨とした。

また、平成26年12月には、松岡、木村が香港中文大学、香港城市大学を訪れ、本研究テーマに関する文献調査を行った。また、松岡は、平成26年11月に、京都大学人文科学研究所にて、文献調査、資料調査を行い、少なからぬ成果があった。川崎は、平成27年3月に、ハワイ大学を中心に調査を行った。島田は、平成26年9月にハワイ島を中心に、調査を行った。ただ、経費不足のため、それぞれに経費の負担を使用することは困難であった。

今後の資料整理のために、備品としてPCを購入、現在、資料のインプット、整理を進めている。

平成27年度は、その具体化をめざし、経費申請をおこない、年度後半には第一次現地調査を行う予定である。同時に、本研究に関する文献資料が十分ではないため、国内の各所に散見する資料についても、できるだけ網羅的に調査する予定である。特に、日本人移民に先行する中国人移民の出身地である福建省、広東省の明、清時代の移民実態資料を広く調査しつつ、ハワイ現地の痕跡を丹念に調査する予定である。本研究は、ハワイを一つの手がかりとして、環太平洋における言語接触、言語干渉、文化交流を総体的に捉える視点が必要であり、更に多くの分担者の参加を呼びかける予定である。

また、大阪の民族学博物館などとも連携して、民族学、文化人類学的アプローチを行う必要があり、そのための調査、取材が必要とされる。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。  
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

上記のように、本年度は、経費が極めて少なく、予備調査の準備にとどまらざるを得なかったため、各自、その成果を準備中であるが、平成26年度は、特にそのテーマに関する論文などの予定はない。